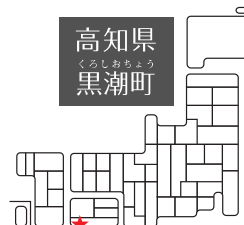


アート・スポーツ・防災×農山漁村で活力を



とく て い ひ え い り か つ ど う ほ う じ ん
特定非営利活動法人
えぬびーおー すなはまびじゅつかん
NPO 砂浜美術館

高知県
くろしおちょう
黒潮町



ビジネス・
イノベーション部門

多様な分野との
連携

農泊

関係人口の創出



Tシャツアート展



ボランティアスタッフと地域住民の交流



海の脅威を学ぶ・防災学習プログラム



概 要

- ◆ 4km の砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。
- ◆ 砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受入。



成 果

- ◆ スポーツツーリズムでの宿泊数が、約 1.2 万泊(平成 30 年度)から約 1.4 万泊(令和4年度)に増加、防災学習プログラム体験者数は、4人 (平成 30 年度)から約 400 人 (令和4年度)に増加するなど、関係人口創出に寄与。
- ◆ 大学と連携した黒潮町産業連関表の作成により地域経済の現状を可視化。経済効果が約 240 万円(平成 23 年)から約 1.3 億円 (令和4年)に増大するなど、砂浜美術館を核とした新しい経済循環づくりに貢献。



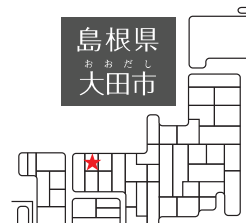
ディスカバー農山漁村の宝(第10回選定)

うちのひつじは空を飛ぶ！羊毛製品を世界へ



笠木 真衣

島根県
おおだし
大田市



個人部門

農業

6次産業化

女性の活躍



ひつじの放牧風景



ふるさと納税返礼品のウールソックス



笠木 真衣

概要

- ◆ 平成 22 年から羊毛加工の技術を学び、平成 28 年に創業。平成 30 年に島根県大田市に移住して、ひつじの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。
- ◆ 農地（5反）を取得し米を作り、ひつじのフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ひつじ米」として販売。ひつじの放牧による除草や、自治会と共同で毛刈イベントを開催。

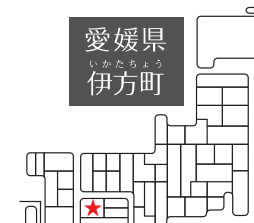
成果

- ◆ 令和5年2月、パリで開催された世界最大のアパレル生地見本市（プルミエールビジョン）に自家羊毛製品を出展し、世界のファッション界へPR。大田市のふるさと納税返礼品にも登録される。
- ◆ 雑草が餌になるため、近隣住民と連携して中山間地に放牧することで遊休地が活用され、里山の景観維持に貢献。年1回の毛刈イベントに100人程度が参加する他、遠方から放牧風景の見学者が増加。



ディスカバー 農山漁村の宝（第10回選定）

小さなしらすで地域を守る！



あ さ ひ き よ う は ん か ぶ し き が い し ゃ

朝日共販株式会社

ビジネス・
イノベーション部門



6次産業化

環境保全（農林水
産業・食品産業）

食育・教育



しらすラーメンと愛媛大学生



しらす漁



食育活動：地元小学校が製造ラインを学習中



概 要

- ◆ フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同してしらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。
- ◆ バイオプラスチックトレーへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。



成 果

- ◆ 売上高は、約 11 億円（平成 17 年度）から約 82 億円（令和 4 年度）に増加。また、伊方町観光交流拠点施設等の集客数は、約 3 万人（令和元年度）から約 25 万人（令和 4 年度）に増加。
- ◆ 輸出額は、約 300 万円（令和 3 年度）から約 900 万円（令和 4 年度）に増加。



ディスカバー 農山漁村の宝（第 10 回選定）

地域の猪の有効活用と、地域の課題解決



株式会社 BINGO

広島県
じんせきこうげんちょう
神石高原町



ビジネス・
イノベーション部門

ジビエ

鳥獣被害防止

女性の活躍



福山施設で焼肉用に処理された猪肉



神石施設でペットフード製造された猪肉



ペットフードプロモーション活動の様子

概要

- ◆ 有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し、高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命の有効活用に取り組む。
- ◆ 個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。

成果

- ◆ 処理頭数は、約 220 頭（令和元年度）から約 790 頭（令和4年度）に増加し、地域全体の課題解決に貢献。
- ◆ 売上が、5万円（平成 30 年度）から約 2,300 万円（令和4年度）に急増。女性従業員の活躍により、ペットフード数は1商品（令和元年度）から 12 商品（令和4年度）に増加。

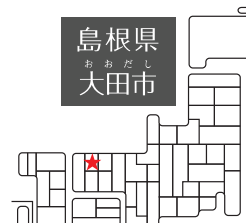


ディスカバー農山漁村の宝（第10回選定）

隠れた資源を磨き上げ域内消費拡大へGO！



おおだしょうこうかいぎしょ
大田商工会議所



コミュニティ・
地産地消部門

水産業

地産地消

企業との連携



行列ができる飲食店で提供されるあなご天丼



あなご料理コンテスト 入賞作品



小学校での出前講座

概要

- ◆ 漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。
- ◆ 大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。

成果

- ◆ 市内のあなごの取扱量は、0.2t（平成30年度）から38t（令和4年度）へ増加。料理提供店舗は、2店舗（平成30年度）から30店舗（令和4年度）に増加。市場での競り値はかつて500円/kgだったが1,300円/kg程度で推移。
- ◆ 食品加工業者に商品開発を依頼し、加工品数は、1種類（平成30年度）から19種類（令和4年度）へ増加。飲食店と加工商品の年間売上は、270万円（平成30年度）から5億円余（令和4年度）に増加。



ディスカバー 農山漁村の宝（第10回選定）